

3 国権党の記者として活躍



熊本市街地図：明治30年頃



九州日日新聞記者
安達謙蔵
国権党



荒尾村 革命家
宮崎滔天
民権党



海軍囑託諜報 ジャーナリスト
宗方小太郎
国権党

哲太郎、東京・京都に出現

宗方小太郎日記「から

明治26年5月東京の宗方を訪問

五月初三日

雨天。朝佐藤帰る。志賀哲太郎来談。

西京井手三郎に復信す。上海白岩龍平の信至る。白岩は研究所の困難を救ふため市川徹弥と共に大坂に帰る筈なりと云ふ。又た熊本緒方二三、前田彪より来信。夜緒方、山田に発信、東京運動の概略を報ず。

五月初四日

晴。朝中西、荒賀、宮内、中川義弥、

志賀来談。下午中西と荒賀の処に至り談ず。夜炸醬麵を作り食ふ。味頗る美。十時帰る。亀雄来談。家大人の書あり。

五月初五日

晴天、風大。午前中西来り、午後去る。井手京都より来信。品川子京都にて都合悪しと云ふ。古城、志賀来談。中川義来り宿す。井手三郎に復信す。

明治26年6月京都から宗方へ書簡

六月十日

雨天。天津仲正一（陸軍大尉小沢徳平也）、芝罘白須直に寄するの書を作り、中西正樹の天津行に托す。午前出て河野を訪ひ、晌午帰る。別府氏留守中に来訪せりと云ふ。下午河野と古城貞吉を訪ひ、三時帰る。夜鳥居来談。是日家大人の書及び菅婦人、京都志賀哲太郎の書到る。

哲太郎は、明治23(1890)年佐々友房や古荘嘉門(ふるしょうかもん)らを中心に結成されていた「紫溟学会」(しめいがくかい)に入会し国権党員となり、九州日日新聞(明治21年創設)の記者として採用されました。この頃、安達謙蔵(あだちけんぞう)や宮崎滔天(みやざきとうてん)らとの交流が生まれました。東京～熊本を往来し、政客との交わりを深め、各地の政情をも調査し記事にしました。哲太郎の東奔西走の状況は、国権党で海軍囑託諜報員であった宗方小太郎の日記にも記録があり、東京や京都でも活動していたことがわかります。